

第1部

- 1 校長 あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 委員自己紹介
- 4 会長、副会長選出

第2部

5 学校運営に関する基本的な方針等の説明と承認

- 木崎小学校の教育活動について（学力向上、安心安全、地域とともにある学校づくり、教員の資質向上、心の教育）

いじめ案件については、校長を中心に迅速に対応し、その日のうちに方針を決定している。

- 予算執行計画について
- 家庭学習ガイドラインについて
- つけたい力をつけるにはどうしたらよいかという視点で作成した。

宿題と家庭学習を合わせて自主学習と捉えている。

- いじめやトラブルはできるだけ速やかに、正確に把握し、その日のうちにある程度の結論が出せるようにしたい。

学校は事態をしっかり把握し、こういう動きをしているということを保護者に理解してもらうなど、保護者を不安にさせないことが大切と考える。

- 学校はその子本人をよく知っていることが大切であり、また、学校としての解決能力を育てていくことが大切と考える。誰かに任せてしまう傾向もあるが、組織的に取り組んでいくようにしたい。

- SNS上のトラブルについて

- 心の成長は目に見えない難しさがある。被害、加害の両者も学校が育てていく必要がある。そのため、本当の解決までには長い時間がかかることを保護者も共通理解することが

大切である。

- 保護者は学校をよく知らない面もある。例えば SNS のトラブルは主に学校外で起こっており、本来は家庭で解決すべきだが、学校に対応が持ち込まれてしまうことも多いと感じる。
- 先生方の保護者対応などを軽減し、本来の子どもたちが学べる環境をつくってもらうことが大切だと思う。先生方が効率よく、効果を上げるための工夫があるとよい。
- 例えば、トラブルが連絡帳を通して担任に伝わると、学年主任に報告し、校長に伝わる。その後は保護者の思いや保護者間の解決の道筋も予想して解決に向かう。児童への聞き取りは担任と主任が行うので、その間の授業をどのように進めるかも課題となってくる。
- 学校運営協議会の各委員が、それぞれの立場を意識して連携を図ることが子どもの力をつけることにつながってくる。

本年度の学校運営に関する基本的な方針の仮承認については全会一致で承認

6 熟議

「ありがとう」のあふれる学校、地域を目指して学校・家庭・地域それぞれ何ができるか

- 「ありがとう」のあふれる学校について自治会でも広めていく。
- 数量化は難しいが、育成会でも「ありがとう」の言葉が増えている。
- どこで「ありがとう」と言うかチャンスを見付けている。
- 親が「ありがとう」と言えば自然と子どもも「ありがとう」と言う。簡単なことでいいから一つのことをみんなでやっていくことが大きな力になる。まずは言葉に発し、「ありがとう」と言える行為、場面を見逃さないようにしたい。

第1部

1 校長 あいさつ

2 購入物品について

○1年生であることが分かるように黄色帽子を継続して使用していきたい。

男女の区別なく形を選択できるようにしたい。

購入の選択肢を増やす目的で、従来の納入業者のほかに一般に販売されているものを購入してもよいこととしたい。

○選択できることはよいことだと思う。

○選択した結果、他の児童との差異を指摘されることも懸念される。

○車を運転する立場からすると、黄色帽子が1年生と分かることで運転に注意を払うようになる。

○選択した形の他の児童との差異については、2年生からは形も自由になるので他の子との差異も気にならないと思う。

○来年度の様子を見ながらさらに検討を重ねていきたい。

○幼稚園で使っている体操服を1年生の初期にも使えるとよいと思う。ラインやワンポイントが入っているが大丈夫か。

○ラインやワンポイントが入っていても可とする。また、今まで使っていたものも可能としたい。

○色について、遊びと体育の授業という指導上の区別をつけたいが、白でなければいけないというわけでもない。

○白色はけがをしたときに、けがの部位が分かる利点はある。

○ズボンの色は現在使用している緑色を継続することで、運動会など大勢が集まる中でも本校の児童であることが分かる利点もある。

3 校外学習について

- カリキュラムの見直しとバス代高騰への対応を考慮し、偶数学年でバスを使用する校外学習を考えている。
- 徒歩遠足は、順延の対応が容易である。
- 児童数増加に伴い見学場所の確保も困難になってきている。
- 支払いの方法も金銭事故防止の観点から、学校が集金をする方法（児童が現金を持参する）から保護者が直接振り込むなど支払い方法も変更している。

4 学校評価について

- いただいたご意見を学校運営に生かしていきたい。
- アンケートを行う順番は保護者と児童を先に行い、教職員はその後に行うことで学校運営の改善につなげていきたい。

第2部

5 熟議

- 「ありがとうのあふれる学校」をもう少し目に見える形にするためにはどうしたらよいかを考えていきたい。
- 「ありがとう」ポストを設置活用して、ありがとうの言葉が自然と広がっていく環境が整えられるとよい。手紙を書くことにより、うれしかった気持ちが伝わると思う。
- 学校運営協議会の各委員が、それぞれの立場を意識して連携を図ることが、子どもの力をつなげることに繋がってくる。